
勇者が弱いと駄目ですか？

忌み姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者が弱いと駄目ですか？

【Nコード】

N2975BA

【作者名】

忌み姫

【あらすじ】

あるところに常に異世界から連れて来た勇者を抱え、それによって存続し続けてきた国があった。

その国で先代の勇者が亡くなったため、新たに召喚されたのはおそらく史上最弱、最年少であろう少女ゆうしゃだった。

そんな少女がそんな異世界の異国と自身の住んでいる世界にほんを行き来しながら暮らすお話です。

始まりの序章（前書き）

処女作ですので分かりにくい表現や変なところが多々あると思いますがご了承ください。

誤字・脱字等ありましたら教えて頂けるとありがたいです。

始まりの序章

神は示した。

私に常人程度のチカラしか無いことを。

王が、王子が、家臣が、市民が、そう私はこの国の多くの希望なのに。

勇者として呼び出されたのに。

私は何出来ないかも知れない。

なんなんだろうこのステータスの振り方は。

20個近く有る項目のほとんどは

戦闘能力はほとんど皆無の・・・

器用さや集中力はほぼ並の・・・

と常人に劣るとも勝れはしないものだった。

常人を確実に上回っていると言えるものはたったの3つだけだった。

魔力が低級魔術師程度である・・・

それから異世界で育んできた知識が・・・

そして最後に・・・が無駄を通り越して呆れるほどの・・・

という馬鹿げた数値のみだった。

これから戦うであろう勇者のためのチートというものはこの世界には無いのか！？

戦いに使えそうな項目の数値がおおかた高くないってどういうことなのですか！？

この世界の神に私は愚痴った。聞いてもくれないと思うけれど。私が思っているような神様なら忙しくてそんな暇ないだろうしね。

あはははは、涙が出来た、悲しすぎて。

1・召喚

「っ、召喚成功か？」

少年は呟いた。息が切れている。

少年の目の前には直径2mほどの複雑な模様のはいつた白く光る円があり、その中心には一人の可愛らしい少女が、その円から少し離れを囲むようにの少年の家臣たちが数名立っている。

少年は円の中の少女を凝視した。少年は少女の年がおよそ11歳くらいだろうかと推測する。肌は割と白く、目は目がほとんど暮れた後の空のような濃い藍、髪は漆黒、全体的に細くて手足なんかは簡単に折れてしまいそうだ。

（可愛い・・・）少年はそう思った。

少女は正座を崩したような格好でしゃがみこんだまま、なにが起ったのかわからないと言わんばかりにポカンとした顔をして動かなかった。

皆が皆、しばらく沈黙した。

そして3分ほど経ち、少年がようやく口を開き、

「ようこそ、今代の勇者殿。歓迎する。」

と静かに言い放ち、少女に手を差し伸べた。

今度は少女が少年とその手を凝視した。

20秒ほど過ぎた後で、少女は顔に不安の色をにじませて周りをぐるりと見渡した。

周囲を見知らぬ人たちに囲まれて、全く知らない空間にいることに少女は気がつく。

少女は正面に向き直る。目には涙が浮かんでいる。そして泣いた。

「どこのここは――――！！」

と少女と同じくらいの年齢でしかないのであろう少年に向かって泣き叫んだ。

少年の家臣たちは焦った。召喚された勇者が前例の少ない女であることはいいとしても、主への応答をしないどころか突然泣き出したのだ。

そんなことはこの国の歴史書をかたっぱしから調べても一例たりとも出てこないだろう。つまり、前代未聞のことである。

だがその異常事態もすぐに収まった。

少女が突然泣き止んだのだ、意識を失って。

倒れる少女を少年は抱きとめる。家臣は皆息を止めた。その中から医務官らしき人物が少女を診断する。

「大丈夫です。精神的な負荷のせいで気を失っただけです。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2975ba/>

勇者が弱いと駄目ですか？

2012年1月8日19時46分発行